

令和6年度 社会《第1学年》年間指導計画

担当（松尾 宏樹・中村 浩）

社会 教科の目標
 社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成する。

社会 第1学年の目標
 地理 (1) 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
 (2) 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
 (3) 社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
 歴史 (1) 我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解するとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
 (2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
 (3) 日本や世界の地域に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。

※【知】は「知識・技能」、【思】は「思考・判断・表現」、【態】は「主体的に学習に取り組む態度」 松尾が週2時間担当し、歴史的分野及び地理的分野、中村が週1時間担当し、地理的分野を担当

月	単元名	学習内容	評価規準	評価資料
4 5	【歴史的分野】 第1部 歴史のとらえ方と調べ方 6時間	○歴史の流れと時代区分 ○歴史の調べ方・まとめ方・発表のしかた	【知】 ○年代の表し方や時代区分の意味や意義についての基本的な内容を理解している。 ○資料から歴史に関わる情報を読み取ったり、年表などにまとめたりするなどの技能を身に付けている。	【知】 A・B
			【思】 ○時期や年代、推移、現在の私たちとのつながりなどに着目して、歴史上の人物や文化財、出来事などから適切なものを取り上げ、時代区分との関わりなどについて考察し表現している。	【思】 A・B・C
			【態】 ○過去を継承しつつ、現在に生きる自身の視点から歴史に問いかけ、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	【態】 A・B・C・D
6 7 8 9	第1章 古代 古代国家の成立と東アジア 22時間	○人類の登場から文明の発生へ ○東アジアの中の倭（日本） ○中国にならった国家づくり ○展開する天皇・貴族の政治	【知】 ○世界の古代文明や宗教のおこりを基に、世界の各地で文明が築かれたことを理解している。 ○日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰、ヤマト王権による統一の様子と東アジアとの関わりなどを基に、東アジアの文明の影響を受けながら日本で国家が形成されていったことを理解している。 ○律令国家の確立に至るまでの過程、摂関政治などを基に、東アジアの文物や制度を積極的に取り入れながら国家のしくみが整えられ、その後、天皇や貴族による政治が展開したことを理解している。 ○仏教の伝来とその影響、かな文字の成立などを基に、国際的な要素を持った文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解している。	【知】 A・B
			【思】 ○古代文明や宗教がおこった場所や環境、農耕の広まりや生産技術の発展、東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ○古代までの日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。	【思】 A・B・C
			【態】 ○古代までの日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	【態】 A・B・C・D
10 11	第2章 中世 武家政権の成長と東アジア 18時間	○武士の世の始まり ○武家政権の内と外 ○人々の結び付きが強まる社会	【知】 ○鎌倉幕府の成立、蒙古襲来（元寇）などを基に、武士が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まったこと、元寇がユーラシアの変化のなかで起こったことを理解している。 ○南北朝の争乱と室町幕府、日明貿易、琉球の国際的な役割などを基に、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接な関わりが見られたことを理解している。 ○農業など諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的なしくみの成立、武士や民衆などの多様な文化の形成、応仁の乱後の社会的な変動などを基に、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解している。	【知】 A・B
			【思】 ○武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ○中世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。	【思】 A・B・C
			【態】 ○中世の日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	【態】 A・B・C・D
12	第3章 近世 武家政権の展開と世界の動き 4時間	○大航海によって結びつく世界	【知】 ○十字軍の遠征を通じたイスラム勢力との交流や、それに伴うローマ教皇の権威の衰えが近代ヨーロッパ世界の形成を促したこと、新航路の開拓とヨーロッパの人々の進出により世界の一体化が始まったことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。	【知】 A・B
			【思】 ○植民地化や貿易の活性化、先住民の酷使やアフリカからの奴隷の連行に着目して、ヨーロッパの人々の進出が、アフリカやアメリカ、アジアに与えた影響を考察し、事象を相互に関連付けるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	【思】 A・B・C
			【態】 ○鉄砲を複製し大量生産した日本の技術や、キリスト教伝来の際の人々の姿勢や考えについて、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	【態】 A・B・C・D

4 5 6 7	【地理的分野】 第1部 世界と日本の地域構成	○世界の姿 ○日本の姿	【知】	○世界の六つの州と主な国の位置と名称や、緯度と経度のしくみを理解したり、地図帳のさくいんや統計資料を活用したりしている。 ○世界の中での日本の位置や、日本の領域と領土をめぐる問題、日本の都道府県について理解し、世界の中での日本の位置を示したり、日本と各地との時差を計算し時刻を求めたりすることができる。	【知】 A・B
			【思】	○国名や国旗、国境線の特徴から、その国の歴史や文化が分かることや、さまざまな種類の世界地図の特徴を考察している。 ○世界の中での日本の位置や広がりや、日本と世界各国の時差、日本の領土・領域について、多面的・多角的に考察している。	【思】 A・B・C
			【態】	○地図や地球儀に親しみ、世界の地域構成や位置の表現方法について主体的に追究している。 ○世界の中での日本の位置や広がりについて関心をもち、地球儀や地図を活用して、それらの事象を主体的に追究、解決しようとしている。	【態】 A・B・C・D
8 9 10 11	第2部 第1章 世界の様々な地域	○人々の生活と環境	【知】	○世界各地の人々の多様な生活と環境について、気候や地形などの自然条件と衣食住や宗教などの社会的条件を関連づけて理解している。	【知】 A・B
			【思】	○世界各地の人々の多様な生活と環境について、自然条件や社会的条件と関連づけ、写真や地図、主題図などを活用して多面的・多角的に考察している。	【思】 A・B・C・D
			【態】	○世界各地の人々の多様な生活と環境に対して関心をもち、主体的に追究しようとしている。	【態】 A・B・C・D・E
12 1 2 3	第2部 第2章 世界の諸地域	○アジア州 ○ヨーロッパ州 ○アフリカ州 ○北アメリカ州 ○南アメリカ州 ○オセアニア州	【知】	○多様な自然環境や文化、産業がみられるアジア州について、地域ごとにその特色を理解し、地域間の違いからアジア州全体の地域的特色を理解している。 ○ヨーロッパ州の地域的特色を自然環境、文化、産業の特色に着目して大観し、自然環境や文化にみられるヨーロッパの共通性と多様性を理解している。 ○アフリカ州の人々の生活や産業の特色を理解し、アフリカ諸国とヨーロッパ諸国との文化や経済的な関係を、資料を用いながら歴史的背景を踏まえて理解している。 ○世界をリードし続けているアメリカ合衆国において、民族の多様性や、広大な国土を利用した農業、変化し続ける工業について理解している。 ○多様な文化を受け入れながら独自の文化を形成してきた南アメリカ州の経済成長について理解するとともに、発展の一方で経済格差や環境破壊などの問題が生じていることを、本文や資料から調べ、まとめている。 ○オセアニア州の自然環境の特色と植民地支配されていた歴史を理解し、自然環境と結びつく産業や、多文化社会による移民と先住民との共生などの地域的特色を理解している。	【知】 A・B
			【思】	○アジア州の国々が急激な経済発展をしている理由を、人口増加や他地域との結び付きなどに着目し、多面的・多角的に考察し、表現している。 ○国どうしや他地域との結び付きに着目して、EU統合の背景と課題、人々の生活に与える影響などについて、ヨーロッパ州の地域的特色と関連付けて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ○輸出品が特定の農産物や鉱産資源に偏るようになった原因を追究し、その問題点を多面的・多角的に考察している。 ○北アメリカ州の地域的特色や課題を、そこに暮らす人々の生活の様子を基に、多面的・多角的に考察している。 ○ブラジルで経済成長が続いている要因と熱帯林の減少の背景を関連付けて考察し、その解決策を多面的・多角的に考察している。 ○オセアニア州の国々が、ヨーロッパの国と密接な関係を保ちながら、近年アジアとのつながりを深め、多文化社会を進めている理由や課題を多面的・多角的に考察している。	【思】 A・B・C
			【態】	○急激な人口増加と経済発展が、アジア州に暮らす人々に与える影響や、それによって生じる課題を、主体的に追究しようとしている。 ○日本との比較を交えながら、ヨーロッパ州の人々の生活に関心をもち、地域的特色及びEU統合や文化の多様性に関わる課題を主体的に追究しようとしている。 ○ヨーロッパ諸国との関係やモノカルチャー経済に着目しながら、アフリカ州の地域的特色への関心を高め、課題の解決を主体的に追究しようとしている。 ○世界に大きな影響を与える北アメリカ州の産業や文化に着目しながら、それに関わる課題を主体的に追究しようとしている。 ○近年の経済成長に着目しながら、南アメリカ州の地域的特色と農地や鉱山の開発による環境問題について主体的に追究しようとしている。 ○オーストラリアやニュージーランドの多文化社会に着目しながら、オセアニア州の地域的特色や地域の新たな課題を主体的に追究しようとしている。	【態】 A・B・C・D
12時間					
10時間					
33時間					

※年度当初から松尾が歴史的分野、中村が地理的分野の授業を行い、12月に歴史的分野の学習を終えた後は、松尾・中村ともに地理的分野の授業を行います。

